

機関番号：32511

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20530698

研究課題名（和文）映像史料による「学習空間」の生態解析

研究課題名（英文）Analysis of the realities and process of child's learning
by historical image-materials

研究代表者

阿部 彰 (ABE AKIRA)

帝京平成大学・現代ライフ学部・教授

研究者番号：90054832

研究成果の概要（和文）：

3年間にわたって取り組んできた本研究の成果は、下記のとおりである。

第一に、人間形成と学習環境に関わる映像史料(映画およびTV映像)についての所蔵実態および保存状況に関する調査を全国規模で実施し、当該史料の利用上の条件を整備した。

第二に、特に保存利用価値の高い映像史料について、詳細な画像解析を行い、作品ごとに文字・映像情報を集約した「場面展開表」を作成した。

第三に、本研究の成果を冊子(B5判、457頁)にまとめ、成果の普及と利用上の便宜を期した。

研究成果の概要（英文）：

The result of this study on which it has worked for three years is as follows.

First, the investigation concerning the owning situation and the preservation situation of the historical image-materials (movies and videos) was executed on a nationwide scale. Because these historical image-materials are extremely useful to know the human formation and the learning environment.

Secondarily, image-materials with especially high preservation utility value were analyzed in detail, and "Data-Sheets" that consolidated the character and image information on each image-material were made.

Thirdly, the result of this study was summarized in the booklet (B5 size and 457 pages), and convenience in the giving information for use has been made arrangement.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	300,000	90,000	390,000
総計	3,700,000	1,110,000	4,810,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：映画・映像史料、学習空間、イメージ分析、学習・教育環境、画像情報データベース

1. 研究開始当初の背景

本研究に着手した事情は、研究代表者が過去20数年余にわたって取り組んできていた

「映像史料」を文書と併せて教育研究の基本資料として活用するための条件整備をさらに格段に進める必要性を認識したからに外

ならない。先行研究の成果をまとめ、「人間形成と学習環境に関する映像史料情報集成」(1993年、風間書房)として公刊して以来、20年近い歳月が経過し、この間の映像をめぐる環境の変化をふまえて、時代の推移に即応した映像の活用のための体勢づくりに早急に取り組むべきとの決意をするに至った。

2. 研究の目的

本研究では、これまでの研究経過と蓄積をふまえ、つぎの諸点に重点を置いて進め、フィルム、テープ、ディスクなどメディア媒体の枠組みを超えた映像情報を網羅することを期した。

第一に、前著において「1950年代まで」に止まっていた調査対象範囲を「1960年代以降現代まで」に拡大し、さらに前著の積み残し部分を追加、補充した。

第二に、1960年代以降急速に普及したテレビ映像、ビデオ映像、ディスク映像を調査対象に加え、長年にわたって映画の画像解析において開発、蓄積した技法を駆使して、画像情報の解析、整理を行った。

3. 研究の方法

本研究では、これまでの調査研究の視座、対象、技法の基本を踏襲し一貫性を図る一方、映像素材の総合的、体系的分析、整理、利活用が、教育研究・教育実践における今日課題の解決に有効に機能するよう、調査研究の取り組みに当たって、とくに、以下の3点に留意した。

第一に、過去における教育の過程、教育・学習環境、人間関係、人間形成などに係る諸事象が、傾向、雰囲気、表情、しぐさなど映像特有の優れた描写特性を生かして、いかなる情報として今日に残され、それが文書による情報をいかに補完ないし凌駕する地歩を占めるものであるかについて、保存利用上の価値が明らかに認められるドキュメンタリー映像(記録映像)、ニュース映像、教育・文化映像、劇映像(児童劇映像を含む)を精査分析することにより、実証的な究明を行った。

第二に、対象となる映像諸作品が教育研究上の意義にとどまらず、世代間コミュニケーションの裾野を格段に広げる重要な位置を占めているにもかかわらず、現実において視聴の機会がきわめて制約され、かつ、散逸が著しい実態を踏まえて、文化遺産としての関連映像の保存、利用、普及上の諸方策についても、試行を含めて具体的な取り組み(映像原版の保存先・保存状況の確認、原版の修復・複製の促進、関連映像の所蔵状況・内容に関する目録の作成と頒布)を中核とする実践的対応を徹底して行った。

第三に、業務用ビデオカメラを駆使して独自に映像制作に取り組み、「学習空間」における児童生徒の活動の実態を継続して記録し分析する方法により、学習環境の在り方を規定する指標を動的に把握する方法により得られた、「学習空間」が「幅広く生きる力」の醸成に不可欠であることの理論的、実際の裏付けをふまえて、本研究においてリストアップされた映像史料が現代の学習環境改善のための手掛かりとして活用し得るものであることを体系的に提示した。

これらの趣旨を具体化するために3領域の研究課題を設定し、3年間にわたり、並行して進めてきた。

第一の研究課題は、前著刊行(1993年)以降に取り組んだ、映像史料を教育研究・教育実践に利活用するための理論・実践研究のとりまとめである。該当する主要著作は、以下の通りである。

- (1)「イメージ分析の手法による学校環境論序説」(〈放送教育開発センター紀要〉7号、1993年)
- (2)「下村兼史論 内に情熱を秘めた案山子」(〈大阪大学人間科学部紀要〉20号、1994年)
- (3)「校歌論 豊中市立学校の学習環境イメージ」(〈市史研究とよなか〉2号、1994年)
- (4)「学習環境学序説 学習環境整備の方向性」(〈大阪大学人間科学部紀要〉22号、1996年)
- (5)「感性を基盤とする学習環境の整備に関する試論」(〈大阪大学人間科学部紀要〉24号、1998年)
- (6)「豊中市史 学校教育編」(豊中市史編集委員会、2002年)
- (7)「戦後教育年表」(風間書房、2005年)

いずれも、教育の過程においてバランスの取れた教育・学習環境を整える上で、教育研究・教育実践の基礎資料として映像史料の利活用が極めて有効であることを示唆し、関連情報の取り扱い方、利活用上の基礎理論、実践理論を展開したものである。前著およびこれら諸著作の成果を整理し、本調査研究をふまえてさらなる深化、拡充を図った。

第二の作業課題は、映像史料の調査、分析と整理である。前著で積み残した1960年代以降の映画フィルム、TV映像、VTR映像、ディスク映像の処理と、既存分の補遺処理が中心となった。すでに、これまでの調査研究の蓄積により関連映像のリスト、所在、内容の概要についての情報の収集は大体終えていたが、各映像作品一本一本ごとに、それぞれに記録された文字情報、画像情報を精緻に分析を進める膨大な作業で、本研究期間の大半がこれに費された。教育研究・教育実践利活用上の基本資料として整える上で必要不可

欠の業務であった。ここでは、前著の作業過程で導入し、世上高い評価を得ている独自の映像整理・分析の技法（「場面展開表」のフォーマット設定、シーン番号による画像引用の汎用技法、キー・シーン概念による画像解説など）を、幾多の改善策を講じた上で踏襲した。

第三の研究課題は、独自制作の映像素材の意義と利活用方法についてである。研究代表者は、子どもを対象とする映像制作は、とかく話題性のある特異なケースを取り上げる場合が少なくなく、各時空の一般的な事象の描写としてはかけ離れた傾向がありがちであることに着目し、その限界、制約を克服するためには、既存映像にとらわれず教育研究者・教育実践者が自ら映像を制作し、保存措置を講ずる必要を説き、その実践活動を展開してきた。このため、高性能の業務用撮影・編集機器を常備し、数台のカメラを同時に稼働させて児童生徒の普段の活動を記録し、編集過程を通じて分析・究明した上、完成した映像を保存する実践を先行試行してきた。諸般の事情から、公開を前提とする学校行事（合唱コンクール、運動会・体育大会、卒業式）および地域行事（運動会）に限定せざるを得なかったが、児童生徒がその活動を通じて幅広い力と感激を獲得していく様子をとらえることができ、同時に自らの収録活動、編集活動を通じて、人間性が存分に発揮される望ましい学習環境がいかに大切であり、その醸成基盤をいかに確保するかについて理論的、実践的な知見を得ることができた。この活動は、1990年以來、全国2府8県における28校、6地域に及び、編集完成品は、延べ14,467分（個別編58編、総合編30編）に達した。本研究では、この活動の経過と結果を、既存映像の分析、利活用上の理論・実践研究にフィードバックし、さらなる着実な展開に寄与せしめた。

4. 研究成果

過去に制作、公開された映像が、教育の事象、過程およびそれを規定する諸関係、背景を描写し、教育研究・教育実践上の基本的参考素材の一つとしての地歩を占めているにもかかわらず、収益性の高い一部の劇映像を除いて、その保存、利活用の体勢はきわめて立ち遅れている。ことに、諸外国に比べて我が国の対応の鈍さは、文化政策の貧困と相まって関係者の危惧するところであった。このような事情をふまえて、本研究では、その調査研究活動を通じて、教育研究・教育実践において歴史的な価値を備えた映像が文書に比肩し得る立場にまで高められることを期し、関係映像について総合的・体系的な保存状況の調査と内容分析を行うとともに、その

文化遺産としての価値を広く普及し、有効に活用するための諸条件を整えるための取り組みを行ってきた。本研究を締めくくるときにあたって、これらの今日諸課題のうち、関連映像情報の整備による教育研究・教育実践の質的充実に幾分なりとも寄与し得たとの力強い手ごたえを感じている。

本研究の成否は、調査研究で得られた関連情報を利活用に向けていかに普及し得るかにかかっているが、解説目録、利用手引書を適宜、関係者に配布したほか、最終年度には、本研究の総括として、下記のタイトル、内容の冊子を作成し、研究成果の普及を図った。

「人間形成と学習環境に関する映像史料情報集成」（2010年、B5判、457頁）

目次

- (1) 本書の趣旨
- (2) 作品選択の基準と内容区分
- (3) 所収映像作品のリスト
- (4) 作品内容の解説
- (5) 「場面展開表」（78作品）
- (6) 「場面展開表」（補遺：31作品）
- (7) 「場面展開表」掲載の全作品リスト

この冊子は、前著「人間形成と学習環境に関する映画史料情報集成」（1993年、風間書房、B5判、941頁）の続編としての位置を占めるものであり、前著の所収範囲を現代にまで広げ、さらに対象を「映画」から「TV映像、VTR映像、ディスク映像」にまで広げて映像メディアの多様化に即応したものである。今回、冊子配布の範囲を研究支援・協力者に限定せざるを得なかった事情をふまえて、近年中に、さらに内容の充実を図り、数編の研究論文を加えて広く公刊することを予定している。また、両書に包摂される文字情報、画像情報をデータ・ベース化し、オンラインサービスの体勢を整えることも想定し、相応の準備をすることになっている。

本研究は、立ち遅れていた映像史料を対象に、調査、分析、普及を格段に進展させたのみならず、同時に、学習環境の規定要因に焦点を当て、高精度の映像収録・編集機器を駆使して10年を超える長期にわたる継続的な取り組みと精緻な分析データの蓄積から得られた理論的、実際の成果を映像史料の利活用促進に結び付けようとした試みは、内外の類似研究において稀有なことであり、本研究を終えるにあたり、限定的ではあるが、その特色を発揮し得たものと認識している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 1 件）

阿部 彰(帝京平成大学・現代ライフ学部・
教授)

「人間形成と学習環境に関する映像情報集
成」(2010 年、B5 判、457 頁)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

阿部 彰(ABE AKIRA)

帝京平成大学・現代ライフ学部・教授

研究者番号：90054832

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：